

Special

妻と2人、国内移住で 田舎暮らしを満喫中！



元横浜市消防局職員 田中修さん（62歳） 平成23年3月定年退職

昭和25年神奈川県出身。大学卒業後の昭和48年4月、横浜市消防局入庁。消防士としての消防活動や予防のための立入検査や危険物指導にあたった。メールアドレス：izukawazu_tnkosm@ydb.ne.jp

地方公務員を退職された方に、その後の暮らしぶりを伺うこのコーナー。今回はスペシャル版として4ページでの取材記事をお届けします。

お話を伺った田中修さんは、横浜市消防局を昨年3月末に定年退職されました。その後、神奈川県藤沢市から静岡県河津町に移住。現在は、奥さまの勢津子さんと2人で田舎暮らしを楽しんでいらっしゃいます。

伊豆半島の先端に近い河津町は、横浜からJR東海道線と伊豆急行で約2時間30分。田中さまご夫妻の住まいは、河津駅から車で約10分の小高い山の中腹にあります。隣家といっても500mほど離れているため、周囲は見渡す限りの大自然。新緑の中を風がわたり、小川のせせらぎと小鳥のさえずりに聞き入っていると、思わず時間が経つのを忘れてしまいうです。





地元の方に気軽に遊びに来ていただけるよう、郵便ポストの上に日替わりで手書きのメモ。鶏型のオブジェもご主人の手作り

こんなところで暮らせたら

——こちらは山も海も近くて、とても良いところですね。

田中さん そうでしょう？ 自然は毎日表情が違いますから、見ていてあきないですよ。

一日中ボーッとしていても楽しいくらい。これからの季節はホタルも飛び交ってきれいです。

勢津子さん 移住してちょうど1年ほど経ちますが、今は河津町に帰ってくる、すぐくホッとしますね。

妻の目から見てみると、主人は、藤沢市と河津町の約100kmの距離があったことで、定年退職後の気持ちの切り替えができたように感じます。

——退職後の田舎暮らしは、ご夫婦どちらのご希望だったのですか。

田中さん 私です。

——いつ頃から考えたのですか。

田中さん 50歳を過ぎた頃だったかな。私は高校生の頃から鶏を飼うのが趣味で、神奈川の自宅でも大シヤモを飼っていました。ですが、住宅密集地の狭い庭で飼っていると鳴き声が近所迷惑だし、シヤモものびのびでなくなっていく。そんなこともあって、田舎暮らしを考えるようになりました。

定年退職してしまえば、通勤圏内に住む必要もありませんでしたし…。

——それを聞いて、奥さまはどう思われましたか。

勢津子さん だったら、ついていこうと思っただけですね。特に反対する理由はありませんでした。

——移住先としては、いくつか候補があったのですか。

田中さん インターネットでいろいろ検索する中で、千葉県鋸南町と山梨県の小淵沢それに静岡県伊豆を候補に絞りました。その中から不動産会社のサイトで良さそうな土地があったら、休日、妻と一緒に見に行っていましたね。

勢津子さん 河津町に決めたのは、夏休みに観光で訪れた際、地元の子どもたちが元気に川に飛び込む姿を見て、日本の原風景のようなどころだなと。こんなところで暮らせたらと思ったのが、決め手になりました。

——土地や住まいの購入資金はどうされたのですか。

田中さん 定年退職の5年前に土地を購入し、2年前に家を建てました。当初、土地は敷地の半分だけ購入して、残り半分は借りることにしました。購入資金は、貯金だけでは足りなかったため、息子から借りて月々返済しました。

勢津子さん 住宅の建築資金については、手持ち資金を頭金にして、残りの分は住宅ローンを組みました。定年後にローンを残さないよう、できるだけ在職中に返済し、残金は退職金で払いました。退職金では、土地の残り半分も購入しました。

——以前のお住まいはどうされたのですか。

田中さん 今は息子が住んでいます。

——移住するにあたり、不安はありませんでしたか。

田中さん 特になかったですね。土地を取得してからは、頻繁にこちらに足を運んで畑を耕したりしていました。畑の近くには資材置き場があつて、その左官屋さんが声を掛けてくれたりして、少しずつ慣れていきました。

あるとき、車が脱輪して困っていたところ、その場所がちょうど大工さんの作業所で、そこらの大工さんが迅速に助けてくれました。そんなご縁で家を建てるときは、くだんの左官屋さん、大工さんなど地元の方々をお願いしました。設計段階から親身になってくれましてね。出来上がった家は、細かいところまで配慮が行き届いて住みやすく、とても気に入っています。

勢津子さん 家が建ったとき、地域の区長さんへ挨拶に伺いました。「定年退職後は移り住んで、地区に加わりたい」とお伝えし、それまでの間、区費などどうしたらよいかを尋ねました。移り住むまでは消防費だけでよいとお返事いただき、そのようにさせていただきました。

引越してきたときは、区長さん、班長さん、両隣のお宅に挨拶に伺いました。

暮らしを見直し、シンプルライフ

——移住後はどのような生活をされているのですか。



田中さん 毎日、畑を耕したり鶏の世話をしたり近所を散策したりして過ごしています。自宅には念願だった作業場もつくったので、大工仕事もいろいろ楽しんでいきます。ナイフを研いだりするのに使う卓上グラインダーは大きな音がするので、住宅地で使うと近所迷惑になります、ここでは気兼ねなく使えますね。

勢津子さん 私は自宅で採れたものを使って手作りのものに挑戦しています。ブルーベリー、甘夏、ニューサマーオレンジなどでジャムやママレードを作ったり、梅の木もあるので、梅シロップや梅干しも漬けました。完熟梅はジャムにしても美味しいですよ。

山の暮らしは価値観といいますが、物差しが街の暮らしとは全く違います。都会ではカッコいいブランドのスーツやバッグも、畑では意味をもちません。山の暮らしの中でカッコいい人の基準は、マムシが出てきたとき、腰のナタでスパッと枝を切つてすかさずマムシを捕まえる人ですね（笑）。

——退職後の生活費は、やはり年金メインですか。

田中さん そうですね。私は（消防司令以下の）消防吏員で昭和25年生まれですから、給料比例部分の年金が60歳から支給できます。老齢基礎年金についても62歳から支給開始となります。その年金が生活費の柱になっています。

——年金の支給開始年齢については、以前からご存じだったのですか。

田中さん 職員向けのライフプランセミナーに定年の10年前と2年前に参加していたので、自分の場合は年金が何歳から、だいたいいくらくらい受給できるかを把握していましたね。

——年金収入だけで、生活は苦しくありませんか。

田中さん 今のところ、ぜいたくをしなれば特に苦しいということはないですね。ここでの暮らしは基本にお金がかからないです。水道光熱費のうち、上水道は井戸水を使っていますし、下水道も合併処理浄化槽を利用しているので、水道料金はほぼ必要ない。電気料金とガス代については、それなり

にかかりますが、夫婦2人分ですから大した金額ではありません。

勢津子さん 食費についても、究極の地産地消で、自宅で栽培したり近くで採れたものを食べているのであまりかららないですよ。

お金をかけずに暮らすコツは「つくる」「借りる」「もらう」です。必要な家財道具は主人が得意の日曜大工で手づくりしたり、リサイクル品を活用しているので、出費は極力抑えられます。今のところ、モノをもたないシンプルな暮らしを実現できています。移住したことが、これまでの暮らし、ライフスタイルを見直す良い機会になりましたね。

——ご夫婦の関係にも何か変化は見られたりしたとか…。

田中さん 夫婦2人だけの生活ですから、以前に比べ、お互い助け合わなければ、という意識が強くなった気がします。

勢津子さん 自宅近くは夜になると本当に真っ暗で、一人で歩くのも怖いくらいです。ですから、なるべく夜は外へ出ないようにしていますし、やむを得ず外出するときは夫の迎えが欠かせません。台風や大雨の警報が出ても一人だと不安ですが、夫がそばにいてくれるので安心できます。

町のルールでお付き合いもシンプル

——都会暮らしをしていた方が地方に移住すると、地元住民の方となじめなかったり、近所づきあいが面倒だという話もよく聞きますが…。

私のネクストステージ

—退職者への質問状—

手作りの石釜でピザを焼く田中さんご夫妻（写真上）
お隣に住むご夫妻も同じ定年退職後の移住組。ご馳走を持ち寄ってランチタイム（写真中）
石釜で焼いたピザは本場イタリアの味（？）（写真下）



田中さん その点、河津町では付き合いがシンプルで、負担に感じるようなことは全くないですね。地区の総会や川と道路の清掃など年4回ほど全員参加のイベントがあるので、どうしても参加できないときは、出不足金を払えば後は何も言われません。もちろん、お金さえ払えば毎回参加しなくていいわけではないと思いますが、明確なルールがあるのでわかりやすいですね。

勢津子さん ここではお葬式やお通夜の準備は地区の方が協力し合って執り行うんですよ。受付や参列者の案内なども近所の方がそれぞれ手分けして行います。今まで経験したことがありませんでしたから最初は驚きましたけれど、そういう機会にご近所の方と親し

くなれたりします。

田中さん 一般的にお葬式やお通夜の後、故人をしのんで食事をしたりお酒を飲むことも多いですが、この地区ではそういうことは一切なく、町内の人がお参りに来たらお礼状とビール1本を渡して終わりでした。それが町のルールみたいですね。

河津町は都会からも近いですし、お子さんが都会に行かれていた方も多いので、近所づきあいも都会的というか、シンプルなんじゃないのかな。

勢津子さん そうそう一つ戸惑ったのは、皆さんが屋号で呼び合うことです。同じ名字が多いからでしょうね、車屋さんとか、油屋さんとか、実際の名字と違うので、はじめは

どなたのことなのかわかりませんでした。

—屋号と名字が一致しないと、確かに戸惑いますね。それでは最後に、これからやっていきたいことがあれば教えてください。

田中さん 定年退職して1年間、毎日、朝起きてからその日やることを決めるような、自由な時間を過ごしてきました。畑や家の手入れ、近所づきあい、趣味などやることはいろいろありますが、生活に張りがほしいなと思うようになりました。それで、回覧板に掲載されていた「町の臨時職員募集一覧」の中から、マイクロバスの運転手の仕事をパートタイムで始めることにしました。

—大型免許を持つていらっしゃるのですか。

田中さん 以前マイクロバスを運転したことはありますが、河津町のマイクロバスは普通のバス並みに大きいですからね。実は明後日が初仕事なのですが、今ちょっと緊張しています。

勢津子さん 私のほうは長年続けている太極拳をきっかけに、町のスポーツ推進委員になり、太極拳の指導員資格を活かせる機会をいただきました。町ではこれまで太極拳の教室がなかったようなので、皆さんにどれだけ受け入れてもらえるかわかりませんが、少しずつ広げていければいいなと思っています。

—うまくいくといいですね。今日はいろいろとお話を聞かせていただき、ありがとうございました。

（インタビュアー／協会職員 鎌田重道・篠田良子）